

海外安全対策情報（2020年第3四半期）

1 社会・治安情勢

新型コロナウイルスの感染拡大が進んでおり、その対策として、ギリシャ政府が外出制限、店舗の営業禁止等、様々な制限措置を講じている。警察が取締りを行っており、違反者には罰金が課される。

- (1) 凶悪事案は多くないものの、窃盗事件が多発しており、特にアテネでは地下鉄・駅等での邦人のスリ被害が極めて多い。
- (2) アテネでは各種労働組合等によるデモや抗議集会が連日のように行われている。大半は平和的に行われるが、一部が暴徒化することもあり、一定の注意が必要。
- (3) アナキストグループの活動が活発であり、様々な口実で、政府関連施設、企業、各国大使館等に対する攻撃を行っている。今後、何らかの理由で日本関連施設が標的となる可能性も排除できない。アテネのエクサルヒア地区周辺では、深夜に警察官に対する火炎瓶等による攻撃が散発的に行われている。また、警察の取締りで同地区から排除されつつあるアナキストグループが隣接するキプセリ地区への進出の動きを見せており、同所を縄張りとする他組織との対立も生じている。
- (4) フェリーや地下鉄などの公共交通機関が全面的に運休する大規模なストライキが度々行われている。
- (5) アテネのビクトリア・スクエアには市内から郊外施設に移動させられた移民・難民の一部が仕事を求めて集まっており、排除しようとする警察と、支援しようとするアナキストとの間での衝突も起こっている。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

- (1) アテネでは邦人のスリ被害が極めて多く発生している。プロ集団による犯行であり、在留邦人や旅慣れた旅行者も多く被害に遭っている。特に地下鉄車内や駅、シンタグマ広場周辺で被害が集中しており、最も警戒が必要である。ここ数年、邦人被害件数が増加傾向にあり、2019年は120件もの窃盗被害が当館に報告された。その内、8割以上がスリ被害である（当館手集計による統計）。

(2) 代表的な邦人被害事案の手口

新型コロナ禍で邦人観光客数は激減したものの、邦人犯罪被害は引き続き発生しており、邦人が標的となっている実態が窺える。

ア 邦人被害では、アテネの地下鉄や駅におけるスリが最も多く、知らぬ間にリュックサックや鞆を開けられ財布等を盗まれている。被害防止のため、リュックサック等を身体の前でしっかり保持することが重要である。

イ シンタグマ広場やオモニアでは、話しかけられたり、液体をかけられたりして、荷物から目を離した隙に鞆などを盗まれる被害が多発している。プラカ地区では飲食店での置き引き被害が多く発生している。ホテルの朝食会場でも被害が出ている。

ウ サントリーニ島のイアでは、人混みのなかでの路上スリが急増している。鞆、特

にリュックサックは身体の前で保持することが重要である。

3 テロ・爆弾事件発生状況

深夜に爆発物でATMを破壊する手口の窃盗事件が連日のように発生している。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人等に対する誘拐事件及び脅迫事件は把握していない。

5 日本企業の安全に関する諸問題

具体的な問題は把握していないが、当地では、労働者の待遇、解雇や作業事故などを口実として、アナキストが企業を攻撃するケースが多く発生しており、注意を要する。